

看護学生のための装着型人体内部確認システムの考案

渡邊順子* 篠崎恵美子 坂田五月 炭谷正太郎

聖隷クリストファー大学

【目的】

2009 年度より看護基礎教育に導入されたカリキュラムにおいて、コミュニケーション能力とフィジカルアセスメント能力の強化は必須条件となり、従来の教育方法の見直しが求められている。本研究では新卒看護師のみならず看護学生が最も苦手とする“コミュニケーション能力”と“身体を系統的に理解する能力”の育成を支援するために 2009 年度に試作された教材をより高いシステムにすべく改良を目的とした。

【方法】

1．国内外の文献を検討しリソースを集め、より効果的なセルフトレーニングのための教材について検討する。2．試作された装着型シミュレーターを公開し、看護学教育関係者から幅広く情報・意見交換を行う。3．試作された装着型シミュレーターについて、看護学生を対象に使用期間を設け、シミュレーターの学習効果（身体内部の臓器のイメージ、聴診器をあてている部分のイメージ、患者・人としての配慮、フィジカルアセスメントスキルのトレーニングシステム）や改良点などを質問紙にて調査する。4．1～3 までの結果をもとに試作品の改良を行う。

【結果】

1．国内外の医学・情報科学・看護学・工学の研究者と情報交換および意見交換を行った。その結果、簡便で装着可能なシミュレーターの有効性を確認した。またシミュレーターの試作品を実際に教員や看護学生に使用してもらった結果、センサーの位置の補正や、装着時の衣類等の状況により感度に違いが生じることなどの改良点を確認し、さらなる改良を実施した。

2．看護学生 40 名への質問紙調査より従来のシミュレーターと試作品との比較において、「身体内部の臓器に対するイメージ」「聴診器をあてている部分の臓器に対するイメージ」については、試作品の方が有意に学習効果があった。しかし、「患者・人としての配慮」「フィジカルアセスメントスキルトレーニングの有効性」については、差がなかった。

【今後の課題】

本研究の目的は“コミュニケーション能力”と“身体を系統的に理解する能力”を育成するための教材開発にある。「装着型人体内部確認システム」の効果的な活用方法および、「患者・人としての配慮」をどのように意識させるかについて、具体的な教育プログラムのエッセンスについては、ハワイ大学でのシミュレーション教育のワークショップで得ることができたため今後引き続き検討する。

【発表状況】

第 13 回日本看護医療学会学術集会にて発表予定である。